

2019年12月26日
日本機械学会
発電用設備規格委員会

発電用原子力設備規格 材料規格における JSME-N13「ニッケル・クロム・鉄合金 690」
GNCF690HM の Sy 値に係る正誤表発行に係る経緯等について

2018年10月23日に発行した材料規格2012年版他に対する正誤表のNo.4について調査した結果、対象年版発刊当時の改定方針と合致していないことが確認された。

当時の改定方針と合致していない正誤表を発行した経緯、処置方針、および再発防止のための対策に関する検討状況を以下に示します。

【経緯】

- 2011年版策定時の改定方針では、当該材料（GNCF690HM）の ASME コード ケース N-698（熱間加工後焼なまし材用）の Sy 値を適用することとしていた。
- しかし、作成した改定根拠書には、Section II 本体にある SB-167 N06690（冷間加工後焼なまし材用、ただし Sy 表には単に「焼なまし材」と記載）の Sy 値を誤って記載した。このため、2011年版公衆審査版ではこの改定根拠書に基づいた SB-167 N06690 の Sy 値が提示されていた。
- 公衆審査後 2011年版発行時にこの誤りに気づき、修正を行ったうえで規格を発行した。ただし、この時に、改定根拠書の修正は行われなかった。
- その後、2017年度に規格の全文誤記チェックを行った際に、2012年版（当該部分は2011年版から変更なし）のチェックでは、2011年版改定根拠書を対照して行ったため、チェッカーから当該材料の Sy 値が改定根拠書記載の値と異なるとの指摘を受けた。
- この指摘を受けて、材料分科会は、改定根拠書の方が正（発行原稿にタイプミスがあった）と考え、この改定根拠書に基づき正誤表(添付参照)の発行を提案した。
注：この時点で、材料分科会は、正誤表を発行した後に、コードケース材を相当材とした他の材料を含めて、改めて原典の確認を行い、その結果に基づき、必要があれば規格の改定で対応することを考えていた。
- 提案された正誤表は、原子力専門委員会および規格委員会で承認後、発行された。

【当該正誤表の処置方針】

当該正誤表の当該部分を削除することで、現在、規格委員会において審議中

【原因】

今回の事案発生の原因は、以下の2点であると考えられる。

- ① 全文チェックで改定根拠書との不整合を指摘された時点での正誤表作成時の確認が不足していたこと
- ② その後の正誤表の原子力専門委員会および規格委員会での審議では、本件は誤記として挙手による承認しかしておらず、技術的な審査が不足していたこと

【再発防止対策】

- 各専門委員会は、数値の変更を含む正誤表を発行する場合は、数値の算定プロセスがトレース可能な根拠書を準備して、正誤表の審議用に添付する。
- 規格委員会は、今回の事案を踏まえ、数値の変更を伴う正誤表の審議に対しては、タイプミスや転記ミスと判断する場合であっても編集上の修正とはみなさず、技術的変更として書面投票を行うことを徹底する（規格委員会では、委員会で投票による決議が不要と認められた編集上の修正等に対しては、書面投票に代えて挙手による決議を認めているが、数値の変更を含む場合は厳格化する）。
- これ以外にも様々な対策をとることで、規格委員会審議中。

以上